

2024.4.2

田村まみ組織内参議院議員、厚生労働委員会で質疑！

医薬品の流通改善と薬価制度・ 薬価改定の在り方、カスハラ対策について 質疑を行いました。



田村まみ議員、武見厚生労働大臣（右）

<https://youtu.be/Wp2UBwYvH-U>

田村まみ組織内参議院議員、発言抜粋

医薬品の流通改善と薬価制度、薬価改定の在り方について



まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「毎年薬価改定を廃止してほしい。薬価を下げすぎたせいで品薄が続いています。」

「薬価が安く不採算となった医薬品の供給が不安定になり、医薬品流通に携わる全ての労働者が疲弊しています。」

「毎年の薬価改定により、医療業界の衰退に繋がっています。」

「供給不安の解決をはじめ、医薬品産業で働く組合員が安心して働ける環境を整備してほしい。」

- 「薬価制度の抜本改革」では、毎年薬価調査・毎年改定の実施にあたり、その対象となる品目に関し、安定的な医薬品流通が確保されるよう流通改善の取り組みをすることが示されています。しかし、流通改善は未だ途上にあり、流通改善という前提条件を無視した薬価の中間年改定は不適切であることを指摘しました。

- 医薬品が適切な実勢価格となっていない状況下での中間年改定について、政府は国民負担の軽減のためと説明するが、薬が届かないこと自体が国民負担であり、中間年改定の即刻廃止を訴えました。
- 後発医薬品に係る産業構造の見直しが議論されてますが、医薬品卸など周辺産業への影響についても認識してもらい、対応策を示すことを求めました。武見厚生労働大臣からも、卸当事者の声を聞き留意していくと前向きな答弁がありました。

<https://youtu.be/QyklgkUX3ss>

田村まみ組織内参議院議員、発言抜粋

カスハラ対策について



まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「カスタマーハラスメント対策の法制化をお願いします。」

「カスタマーハラスメントについて、まだ現場では具体的に対応の仕方が分からず困ることもあります。法制化やマニュアルの作成など、目に見える形での成果をお願いします。」

- 採択から間もなく5年が経過するILO第190号条約（仕事の世界における暴力及びハラスメントの撤廃に関する条約）について、かねてより即刻の批准を求めてきましたが、現時点での課題と進捗について問いただしつつ、カスハラ対策の法制化を早急に行うことの必要性を訴えました。
- 厚生労働大臣からは、①条約批准については国内法制との整合性等の観点でさらなる検討が必要であること、そして、②カスハラ対策については、法令化について言及はなかったものの、2023年に実施したハラスメント実態調査の結果を精査していること、また本年2月から「雇用の分野における女性活躍推進に関する検討会」において有識者での議論を開始したことを言及しつつ、引き続きカスハラ対策を検討するとの答弁がありました。
- UAゼンセンによるカスハラ実態調査を基に、自治体では条例制定に向けた動きも進んでおり、政府としてもカスハラ対策を前向きに進めることを求めました。
- 令和6年度「総合的ハラスメント防止対策事業」における「業種別カスタマーハラスメントの取組支援」について、具体的な支援策を確認しました。労使参画による企画委員会の下で、業界団体を通じた企業への実態把握調査を行うとともに、業界共通の対応方針やマニュアルの策定等を実施し、策定された対応方針等についてプレスリリースや業界、参加企業への周知等の支援が予定されていることがわかりました。